伏見マルシェ

はれプロ
晴佐久　浩司

京都の風習

○農家と消費者のつながり

京都市内では、農家が収穫した野菜を直接各家庭へ売って回る「振り売り」という農家と消費者のつながりが今でも存在します。

○おきまり料理

必要な栄養を効果的に摂取するため、毎月１日は小豆ごはん、１５日はあらめと定番メニューがあります。
その他、行事食として、大根焚きが有名です。

○東寺弘法市

弘法大使の命日を偲んで、毎月21日に骨董品を中心とした露店が出展される。

都市農業の多様な役割

都市農業の多様な役割

新鮮で安全な農産物の供給

○ 消費者が求める新鮮で安全な農産物の供給、「食」と「農」に関する情報提供等の役割

災害時の防災空間

○ 火災時における延焼の防止や地震時における避難場所、仮設住宅建設用地等のための防災空間としての役割

農業体験・交流活動の場

○ 都市住民や学童の農業体験・交流、ふれあいの場及び農産物直売所での農産物販売等を通じた生産者と消費者の交流の役割

国土・環境の保全

○ 都市の緑として、雨水の保水、地下水の涵養、生物の保護等に資する役割

心やすらぐ緑地空間

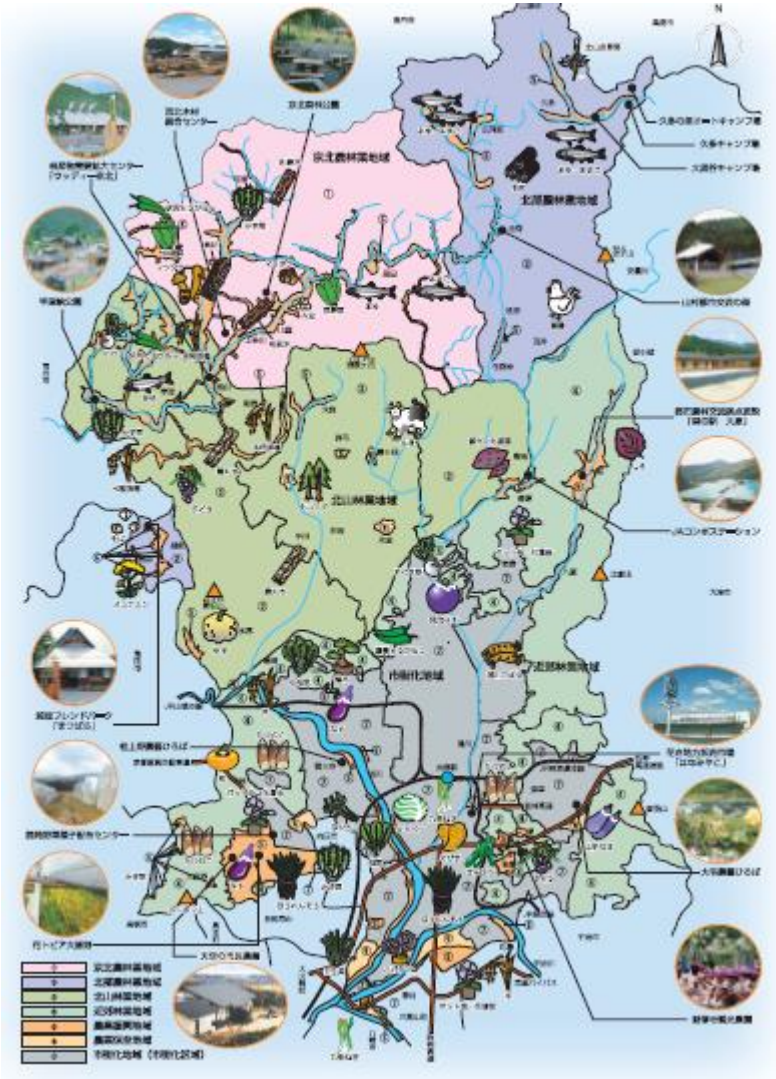
○ 緑地空間や水辺空間を提供し、都市住民の生活に「やすらぎ」や「潤い」をもたらす役割

都市住民の農業への理解の醸成

○ 身近に存在する都市農業を通じて都市住民の農業への理解を醸成する役割

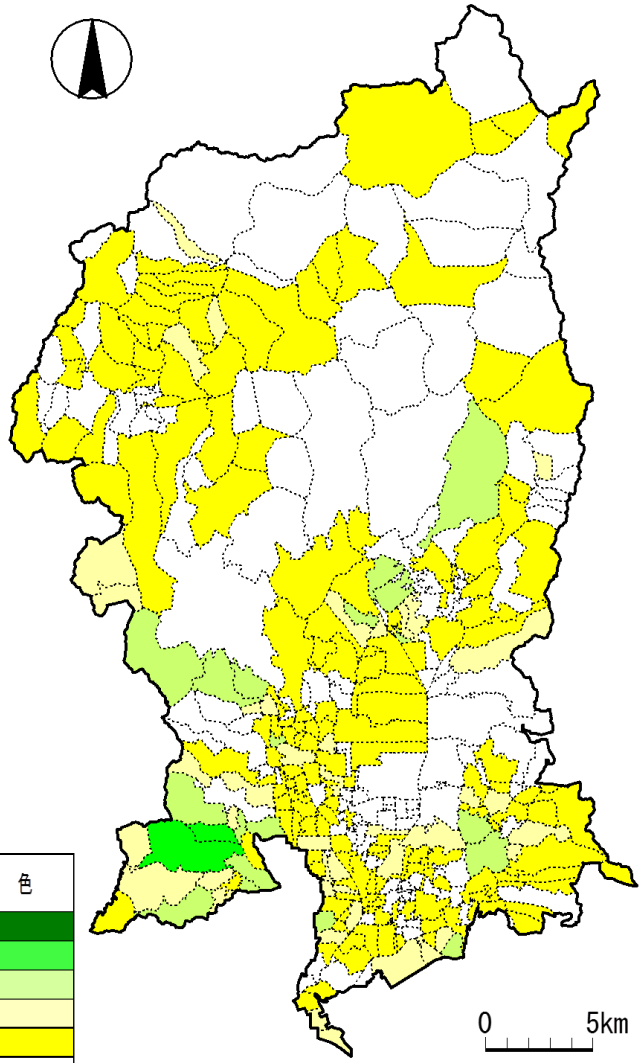
京都市の農業概況

京都市の農林業地域区分



※「京都市の農林業」パンフレットから引用

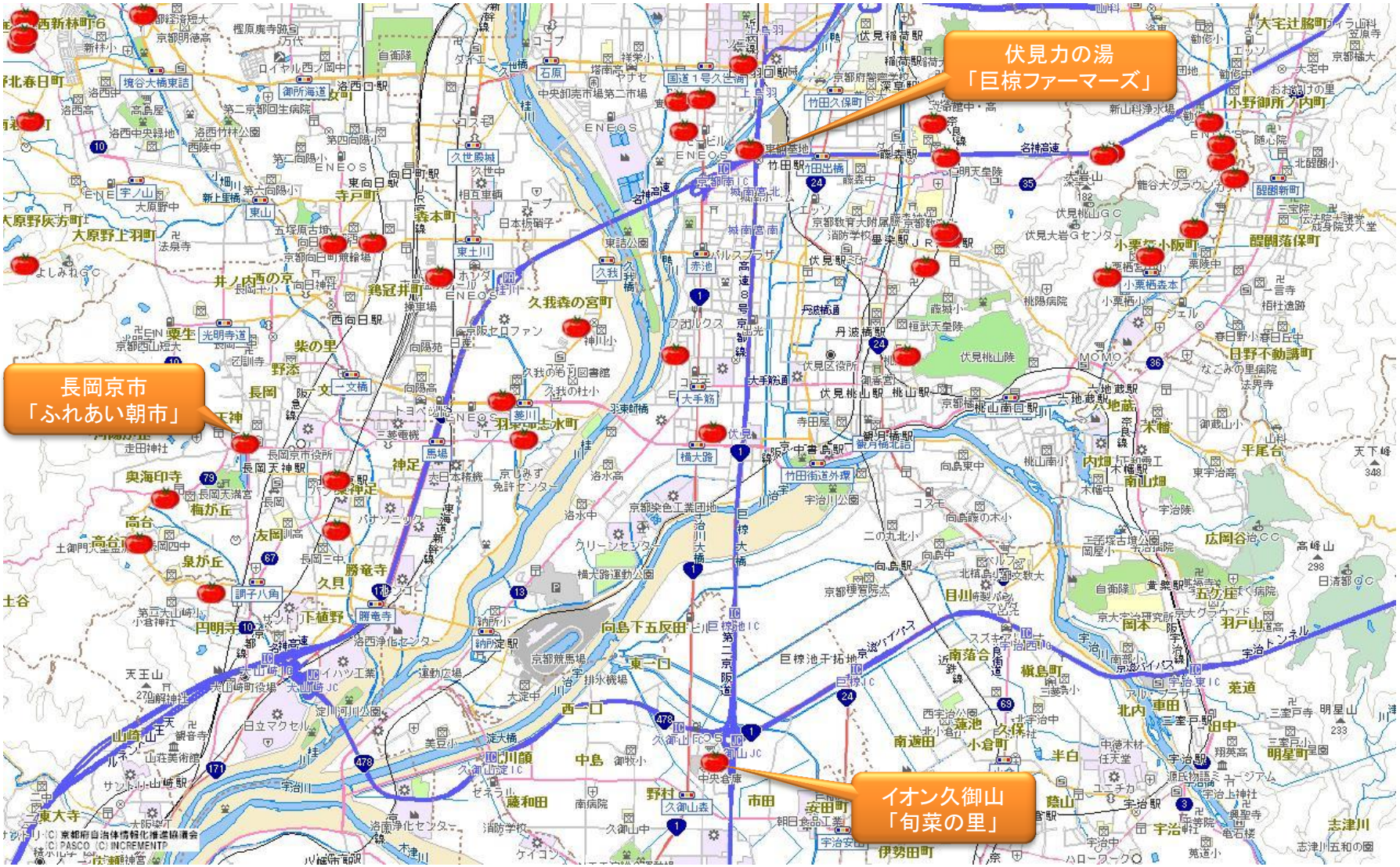
直接販売を行っている経営体数



消費者に直接販売を行っている経営体数	色
30経営体以上	
20～29	
10～19	
5～9	
1～4	
なし	

※近畿農政局ホームページから引用

伏見周辺の農産物直売所



※京都府・市町村共同　統合型地理情報システム　http://g-kyoto.gis.pref.kyoto.lg.jp/g-kyoto/top/index.asp

伏見地域の概況

○交通アクセス

伏見区は京都市中心部から12kmと都市近郊地域で、鉄道はJR、京阪、近鉄と3線あり、 非常に交通の便が良い。

○居住環境

伏見周辺の伏見区、宇治市、久御山町の総人口は約50万人弱と非常に多い。
大手筋商店街は非常に活気があり「新・がんばる商店街77選（H21）」に選定される。

○産業

豊富な地下水があり全国有数の酒処として、月桂冠、黄桜、宝酒造など蔵元がある。
先端技術分野の世界的企業の京セラや村田機械があり、様々な業種の見本市がパルスプラザで開催され、京都の産業の発信地となっている。

伏見マルシェの目的

○農家と消費者のつながり

伏見区では農地が多数存在し農産物が多く出荷されているが、地産地消の取組が地元地域で実施されていない。マルシェを定期的に開催することで、農家と消費者の結び付きをもっと深めていきたい。

○伏見港公園プールの復旧

会場候補地の伏見港公園は、昨年の台風被害で温水プールが利用できない状況。7月京都府議会で予算が承認されない場合、復旧に向けて署名活動を開始したい。

○地域社会の再生へ

身近に農（自然）と触れ合うことを通して、地域に愛着をもち、人とのつながりを育み、いわゆる“むら社会”のような安心感のある地域をつくりたい。

【候補地】 伏見港公園の概況

〇アクセス

・京阪「中書島駅」から徒歩1分

・駐車場200台収容（最初1時間300円、以後1時間毎100円加算）

〇施設

・体育館、テニスコート、相撲場、屋内外プール、広場

・昨年9月の台風18号により冠水被害を受け、一部施設が利用中止。

伏見マルシェの方向性

○対象範囲

- ある程度の品数が必要なので、農産物は伏見に限定しない。
- 伏見住民をメインターゲットとする。

○実施内容

- 単純なマルシェではなく、農家と消費者がつながる場所にしたい。
- 物々交換や農作業ボランティア募集など。

○実施する意義

- 農産物を商品として売るのではなく、農業生産を景観を維持するための社会資本として位置づける。
- 都市住民へ農ある暮らしへの誘導を図っていく。